

# ひともトキも



## 特集「放鳥」

河南省董寨 / 陝西省銅川 / 新潟県佐渡市

# 人と朱鷺

特集

# 「放鳥」

四季報第10号では、今年2013年に実施されたトキプロジェクトの実施サイトである河南省董寨のほか、陝西省銅川市および新潟県佐渡市におけるトキの放鳥について取り上げました。



1981年に陝西省洋県でトキが再発見されて以来、トキを保護するために様々な対策が講じられてきました。野生下で生息するトキの個体群やトキの生息地を保全する取り組みとともに、人工飼育によって飼育下で個体数を増やす取り組みが並行して行われ、2004年からはトキを野外に放鳥する野生復帰の取り組みが実施されています。

最初に行われた洋県での放鳥は、生息している野生の個体群に個体を加える「補強」、その後に行われている寧陝県や日本では、過去に生息していた地域へ再び定着させる「再導入」と位置付けられます。各地での放鳥の経験を相互に活用することで、放鳥の手法や技術の向上も図られてきました。

2013年は、陝西省銅川市や河南省董寨で放鳥が実施されたことで、新たにトキの生息地が増え、過去にトキが分布していた地域へ徐々にトキの姿が戻りつつあります。



これまでに行われたトキの放鳥 (枠内は放鳥羽数)



10月10日、順化ケージから飛翔するトキ（連写した写真を合成）

## 河南省董寨

放鳥場所：河南省信陽市羅山県  
放鳥羽数：34羽（オス17羽/メス17羽）  
放鳥開始：2013年10月10日



10月10日、放鳥に先立ち来賓による挨拶



11月、董寨保護区で飛翔する3羽の放鳥トキ

## 陝西省以外で初となるトキ放鳥

10月10日、トキプロジェクトの現地サイトの一つである、河南董寨国家級自然保護区にてトキ放鳥が実施されました。ここ河南省でトキが放鳥されるのは、洋県や寧陝県など野生のトキが生息している陝西省以外では初めての取り組みです。

放鳥当日は、保護区荒田飼養場にて地元河南省林業庁や信陽市、羅山県の幹部のほか、プロジェクト関係者も参加して来賓による挨拶の後、10時過ぎから順化ケージ側面の一部が開放されました。この順化ケージは、プロジェクトおよび日本駐中国大使館の草の根無償資金協力資金が連携して支援し、整備したものです。放鳥された34羽のトキは3月15日に順化ケージへ移動され、野外で生息するために必要な飛翔や採餌の訓練を行ってきました。

トキが自ら野外に出ていく「ソフトリリース」で実施されたこの放鳥では、10日は15羽のトキがケージから飛翔、しばらくの期間はケージ付近の木やケージの上部にとまったり、ケージ内部に飛んで戻る様子なども見られました。その後、放鳥されたトキが刈り取り後の水田や川で餌を探したり、複数で飛翔する姿が確認されるなど、董寨保護区の中で定着しつつあります。

董寨保護区で飼育されているトキは、北京動物園から移動した個体と、日本から返還された個体（中国から日本に贈られたトキ“メイメイ”から繁殖した子）が導入されたもので、放鳥個体にも日本で生まれたトキの子孫が多く含まれることから、中国国内だけでなく日本のメディアでも報道されました。

陝西省

# 銅川市

秦嶺山脈以北で  
初のトキ放鳥



銅川市で放鳥トキの生息場所を視察する陝西省林業庁 常秀雲副秘書長



銅川市の川でエサを探す放鳥トキ

放鳥場所：陝西省銅川市

放鳥日：2013年7月3日

放鳥羽数：32羽（オス16羽/メス16羽）

7月3日、銅川市耀州区柳林営林場で「中国秦嶺以北トキ放鳥式」が実施されました。この放鳥式は国家林業局および陝西省人民政府が主催し、趙樹叢国家林業局局长、印紅国家林業局副局长、婁勤儉陝西省省長、祝列克陝西省副省长、李三原陝西省林業庁庁長、馮新柱銅川市党委員会書記、および郭大為銅川市市長ら幹部出席のもと、国家林業局保護司、陝西省林業庁、銅川市人民政府が実施したものです。

ここ銅川でトキの放鳥を実施することは、中国における絶滅危惧種保護の重要な措置であり、秦嶺山脈以北でのトキの生存可能性を探る研究にとって大きな進展となります。さらに、過去の分布域を回復し、トキの生息範囲をより一層拡大することで、トキという種を絶滅に瀕した状態から脱却させることに対し、重要な意義を持つものです。

今回、銅川耀州では32羽のトキを放鳥しました。このうち、成鳥は14羽、2012年生まれの亜成鳥は10羽、2013年生まれの幼鳥は8羽です。これらの個体は、陝西漢中トキ国家級自然保護区管理局（洋県）で飼育されているトキから、系統を考慮のうえ、選定されました。いずれも洋県の大規模ケージで順化訓練を経たトキで、野外での生存能力を備え、個体間の血縁関係が相対的に遠い健康的な個体です。今回のトキ放鳥は、トキが自然に飛んでいくソフトリリースで行われました。放鳥場所に設置したケージで一定期間訓練を行ってから、ケージを開き、トキをケージから飛び立たせました。放鳥したトキのうち6羽には、追跡ができるように無線発信機（テレメトリー）が装着されました。

過去の記録によると、中国の北部、東部いずれもトキが分布していました。

トキは一般に温帯山地の森林と丘陵地帯で生活し、生息環境の要求レベルが比較的高く、樹上で営巣し、付近に採食できる水田や浅い川、湿地などがあり、天敵が少ない静かな環境を好みます。現在、銅川の生態環境はトキの生息にほぼ適したものになっているといえます。銅川市北部の耀州区沮河流域は、面積約400km<sup>2</sup>、多くは谷幅が1,500～2,000mと広い丘陵です。

谷間を走る川の流は緩く、氾濫原に湿地が常に形成され、河岸にはヨシや低木が茂っています。魚やエビなどの水生生物も豊富で、冬季は結氷期が極めて短く、谷の両側は落葉広葉樹林で、トキのねぐらや営巣木となる条件を備えています。またナベコウやサギ類などトキと似た環境で生息する種が一年を通じて生息しています。

（文・写真：常秀雲副秘書長）



新潟県佐渡市

放鳥場所：新潟県佐渡市

第8回放鳥

放鳥開始：2013年6月7日

放鳥羽数：17羽（オス13羽/メス4羽）

第9回放鳥

放鳥開始：2013年9月27日

放鳥羽数：17羽（オス3羽/メス14羽）



(日本) 新潟県  
佐渡市

2008年よりトキの放鳥が開始された新潟県佐渡市では、2013年は通算で第8、9回目となる2回の放鳥が実施されました。放鳥は、トキが野生復帰のための順化訓練を行う順化ケージの放鳥口の扉を開放し、トキが自然に野外へ出ていくソフトリリースで行われています。

6月7日に開始された第8回放鳥では計17羽のトキが4日間でケージから飛翔し、9月27日に開始された第9回放鳥は計17羽のトキが3日間でケージから飛翔しました。放鳥後、確認されている個体はいずれも島内の既存の群れと合流し、12月時点で放鳥から約6か月が経過した第8回放鳥個体は17羽中16羽、約2か月が経過した第9回放鳥個体は17羽中14羽が確認されて

います。

2013年12月現在、野生下において生存していると考えられているトキの数は、2012年に野生下で誕生した若鳥8羽および2013年に誕生した4羽を含め、98羽となっています。生息エリアは3地区に分かれ、佐渡市中央部の新穂・両津・金井地区で若鳥5羽を含む最大67羽、西部の真野・畑野・佐和田地区で15羽、南部の羽茂地区で最大10羽がそれぞれ確認されています。本州では引き続き、第1回放鳥個体の1羽が富山県黒部市で確認されています。

また、2013年の繁殖期は佐渡島内で24ペアが形成され、全てのペアについて産卵が確認されました。このうち5ペアから14羽のふ化が確認されましたが、きょうだいペアから誕生したヒナ4

羽を捕獲したほか、巣立ち前に死亡するなどして、巣立ちしたのは2ペアから誕生した計4羽となりました。2013年の繁殖期は島内で確認されていたほとんどのメスがペアを形成した結果、多くのペアが営巣しましたが、中国の野生下個体群や日本の飼育下個体群と比較すると依然としてふ化率が低く、原因の究明が望まれています。

放鳥を重ね、野生下での繁殖も成功することでトキの数が増えている佐渡市では、環境省や新潟大学、地域の市民ボランティア等からなるモニタリングチームにより、日々のモニタリングが続けられています。

(資料・写真提供：環境省)



第8回放鳥では順化ケージから一度に11羽が飛翔



9月、枯れ木にとまる第9回放鳥のトキ



10月、コハクチョウの近くで餌を探す放鳥トキ

## モニタリング分野 本邦研修



写真上から：山階鳥類研究所での講義 / トキモニタリング日中交流会 / モニタリングのデータ入力について解説を受ける / 佐渡トキ保護センターで金子獣医師による説明 / 研修員3名と佐渡市のゆるキャラ「サドッキー」

トキプロジェクトでは毎年、中国側カウンターパートの関係者が日本で実際に現場を訪れ、知識や技術を習得する本邦研修を実施しています。今年度は鳥類バンディングやトキのモニタリングをテーマとして、8月に訪日しました。参加したのは、漢中トキ国家級自然保護区（洋県）、河南董寨国家級自然保護区、および全国鳥類バンディングセンターから各1名の3名で、中島専門家が同行しました。

研修は、まず山階鳥類研究所で鳥類バンディングについての講義を受講した後、新潟県佐渡市に移動し、日本のトキ野生復帰に関する取り組みについて、講義とともに生息環境やモニタリングの様子など現地を視察するという流れです。

山階鳥類研究所では当プロジェクトに派遣されていた米田研究員がコーディネーターを務め、平岡広報主任より研究室の概要や歴史について説明を受けた後、尾崎副所長より日本におけるバンディングの実施状況や得られた成果についてレクチャーがありました。さらに、鶴見自然誌研究室長より標本室をご案内いただき、所蔵されている貴重な標本の数々に研修員の関心が多いに集まりました。

佐渡市では、トキ保護センター野生復帰ステーションにて環境省佐渡自然保護官事務所の広野上席自然保護官および川瀬自然保護官から野生復帰の取り組みや放鳥トキの状況について、また

野生復帰ステーションの本間獣医師から順化訓練や飼育下での管理等についてレクチャーを受けました。また、トキのねぐら出の前から待機するモニタリングチームに合わせ、午前5時前から現地に入り、生息地の状況と合わせてモニタリングの実施状況を視察したほか、市民ボランティアを含むモニタリング関係者が集まり、トキについて日中の情報交換を行うトキモニタリング日中交流会をセットしていただきました。

さらに関連施設として、飼育されているトキが観察でき、トキの基礎知識や放鳥、モニタリングについても紹介されているトキ資料展示館、佐渡市農林水産課生物多様性推進室の村岡係長のご案内により、採餌するトキの様子を間近に見られるトキのふれあいプラザを視察しました。

研修の期間が短く、駆け足での行程となりましたが、各受け入れ先のご協力をいただき、計画された研修内容はすべて終わることができました。今回の研修は、研修員が日本の例を学ぶだけでなく、実務レベルの担当者間で情報交換や技術交流がなされることで、双方にメリットがある研修となりました。研修の実施については山階鳥類研究所の広報ブログで紹介していただいたほか、新聞やテレビなどのメディアで報道され、研修員にとっても日本におけるトキへの関心の高さを実感する機会にもなりました。



佐渡市にて高台からトキが生息する平野部を一瞥



## 西安の大学生、トキプロジェクトでインターンシップ



張テイ [张婷]

トキプロジェクトでは昨年に引き続き9月から、西安で日本語を学んでいる大学生2名のインターンシップを受け入れました。2か月の期間を終えて、張さんと蘭さんにそれぞれプロジェクトやインターンシップについてまとめていただきました。



蘭錦蘭 [蘭锦兰]

はじめまして。私は張テイと申します。陝西師範大学外国語学院日本語学科の4年生です。JICA プロジェクト西安事務所でインターンシップをしました。

事務所の専門家やスタッフのおかげで、いろいろなことを勉強することができました。一番思い出に残っているのは寧陝県への出張です。トキは「秦嶺四宝」の一つとして、みんなによく知られています。去年、私の大学ではJICA人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクトによる、講座が開催されました。トキについて興味を持ってきました。9月25日、寧陝県へ行く機会を得て、野外でトキを見ることができて、本当にラッキーだと思います。

このプロジェクトはトキを保護するだけでなく、地域住民の生活向上や子どもたちの環境教育をも協力しています。皆様の仕事に感心しています。インターンシップの間、私たちは主に資料の収集や整理、また資料の翻訳などを手伝いました。日本語はまだまだ下手ですが、事務所の方々はとても熱心に面倒を見てくれて、心から感謝しています。日本語の勉強は根気が大切で焦りは禁物、日々の積み重ねが重要だと思います。毎日事務所の専門家やスタッフと日本語でコミュニケーションして、日本語を高めることができるという自信を持ちました。

初めまして、蘭錦蘭と申します。陝西師範大学外国語学院日本語学科の4年生です。2年生の時、大学でプロジェクトの専門家の方のトキ保護に関する講義を聞いてからトキに興味を持ち、トキについて少しずつ詳しくなってきました。トキは中国で「東方の宝石」と呼ばれ、「秦嶺四宝」の一つでもあります。

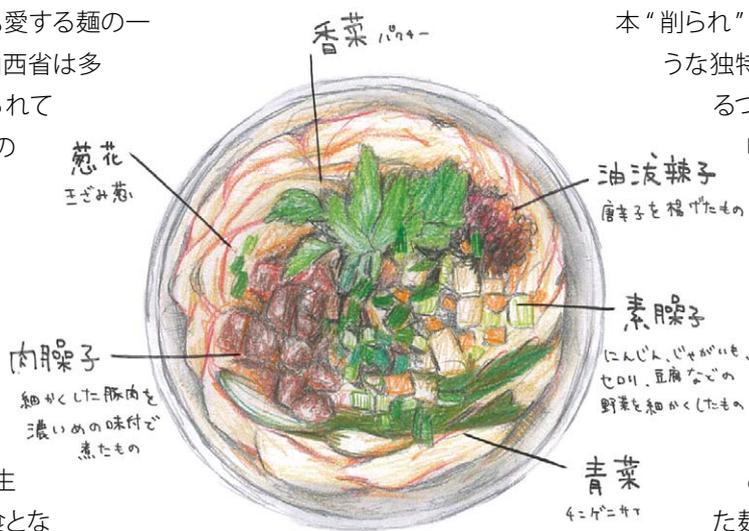
トキプロジェクトでは、さまざまなことを勉強することができました。例えば、トキの生態や生息範囲、繁殖状況などです。特に幸運だったのは、野外でトキの飛ぶ姿を見ることができたことです。太陽の光に映ったトキ色は本当にきれいです。トキは美しくて珍しい鳥であり、人と共生しています。そんなきれいな鳥を保護するためには、生息環境を保護することが大事だと思います。

プロジェクトのメンバーは仕事にとっても真剣に取り組んでいます。森リーダーは本当に偉い方だと思います。中国の環境保護に貢献しています。平野さんは生活を愛する人。中島さんと種さんは本当にやさしくてかっこいいです。索さんも苗苗さんも美人でスマートです。小池さんはかわいくて絵がとても上手です。今回、専門家とスタッフのおかげで、新しい知識をたくさん学ぶことができ、良い経験になりました。



とうしょう  
**刀削麵**  
 [刀削面]

刀削麵は西安人が最も愛する麵の一つです。陝西省の隣、山西省は多くの麵の故郷として知られていますが、中でもこの刀削麵は北京の炸醬麵、河南のホイ（火へんに会）麵、湖北の熱干麵、四川の担担麵に並ぶ中国五大麵として有名です。“麵の王様”と呼ばれるこの麵は今や麵好きの西安人の生活と強く結びつき、日常食となりました。その名の通り、一本一



本“削られ”湯で上げられる柳の葉のような独特な形をした麵は外側はつるつる、噛めばコシがあって美味しいと多くの人に深く愛されています。

この刀削麵、元代に統治者が造反を恐れて金属製の武器を取り上げ、各家庭の包丁までもが没収されてしまった中で料理をするため、薄く小さな鉄片で削った麵を作ったことが発祥と言われています。

(文・イラスト：小池真実)

XianCool

トキの絵本「グッドデザイン賞」受賞!



JICA 広報部主催の2013年広報グランプリにて、プロジェクト作成の絵本「トキをみつけたよ」と「トキのカー太」の2冊（各中国語版、日本語版）がグッドデザイン賞を受賞しました。

当プロジェクトでは3回目となる広報グランプリへのチャレンジにして、ついになかった受賞です。絵本のイラストを担当した小池さんを中心に、中国側カウンターパートなど関係者が協力して制作した結果といえるでしょう。今後もトキの絵本を活用した環境教育活動を継続していく予定です。

人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト

西安市蓮湖区労働南路 296 号民航大厦 14F  
 TEL/FAX: +86-(0)29-88793312  
 微博 <http://e.weibo.com/hitototoki>

日本側担当者：平野貴寛  
 中国側担当者：劉冬平

本誌「ひととトキも」に関するご意見、ご感想をお聞かせください。

[toki.jica@hotmail.co.jp](mailto:toki.jica@hotmail.co.jp)

お断り

本誌は、プロジェクトの近況や情報を率直に読者に伝えることを目的としており、国際協力機構（JICA）の意見を代表するものではありません。